

ガンベリ主幹排水路 1,240m地点、交差するシギ水道橋。まるで通潤橋のように浚渫用の排水口を備え、より大量の送水が可能になっている。2017 年 2 月 26 日



同シギ水道橋。交通路としても安心して通れるようになっている。1m ほどの水深であれば、レンガ壁だけで十分耐える。レンガなら自在に改修がきく。
2017 年 3 月 5 日



トラクターらの通過もできる道路の架橋（約 950m地点）。2017 年 2 月 26 日



ガンベリ記念塔から見る難民キャンプ。マルワリードのガンベリ横断路から約 500m の彼方に、テント群が広がっている。昨年暮れからテントが立ち始め、現在 3000 家族と言われる。実態はよく知らされていない。パキスタンの送還難民だけでなく、クナール州などの国内避難民、遊牧民らも混じっている。同様のテント群が、PMS 作業地のベラ村でも増えてきている。2017 年 2 月 26 日



ガンベリ農場。植樹後3年目のオレンジ園。樹高約2m前後に成長。



新たに加わったミカン園（約 1 ヘクタール）。オレンジを台木に、「キーヌー」というパキスタン産のミカンを接ぎ木している。約 3～5 年で結果する。その様子を見て拡大するという。植樹は気が長くないとできない。苗木の周りは小麦。アフガニスタンでは果樹の周りでも普通に栽培する。今年は約 200 ジェリブ（約 40 ヘクタール）に小麦がまかれ、PMS の職員 110 家族の主食はまかなえる。ただしヘクタール当りの収量は 2 トン前後。土地がまだ痩せているのだ。

2017 年 3 月 5 日



小麦に次いで緑のカーペットを提供しているのがアルファルファで、半ば野生化してガンベリに定着している。畜産の陰の立役者で、これによって冬の飼料は困らなくなっている。日本から持ち込んで残った唯一のもの。2017年3月5日



ガンベリ農場のナツメヤシ園は日本大使館の提供で、間もなく苗木 500 本が移植される。2017 年 2 月 26 日



ナツメヤシ園に隣接するPMS工房は、籠の生産に忙しい。繁忙時には30～40名が熟練工として臨時に雇用される。全て近隣の農民で、用水路工事に参加した経験がある。2017年2月26日



籠のほかに、U字溝、井戸枠、どぶ板、コンクリートの標識棒など、PMSの工事に必要なものは何でも作る。事務所の生産管理が徹底して無駄がなくなった。



建築中の訓練所（PMS職員駐留所）。二階の建築が始まっています。2017年3月4日

